

沖縄作戦に於ける

独混第44旅団第2歩兵隊第3大隊史実資料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

部隊経歴

昭和19年6月29日 動員完結、富山丸遭難事件分動員関係
月日不詳

残存者500名独混44旅団第1歩兵
隊

8月16日 西部第17部隊にて独混44旅団第2
歩兵隊動員完結

18日 西部第17部隊出発

自 18日

至 27日 鹿児島県立第1中学校に於いて待機

28日 鹿児島港出帆(大信丸)

自 29日

至9月 1日 大信丸火災の為大島名瀬港に不時着港
上陸、名瀬国民学校宿営

2日 名瀬港出港(厦門丸)

4日 沖縄県国頭郡名護港着上陸

名護国民学校及び第3中学校宿営

6日 独混44旅団第1歩兵隊及び第2歩兵
隊を合隊し

独混44旅団第2歩兵隊動員編成完結

自 9月18日

至10月 2日 伊江島飛行場設定特援作業従事

-56-

2889

10月 7日 各大隊は左の通り守備地区に転進
第1大隊 本部地区
第2大隊 名護地区
第3大隊 八重岳地区

尾崎部隊（第3大隊）経歴

10月 7日 国頭郡安和国民学校駐屯
10月10日 沖縄本島空襲（南西諸島空襲）
10月11日 八重岳周辺に移動
12月 6日 中頭郡具志川村に移動の為出発途中恩
納村へ一泊
8日 中頭郡具志川村到着駐屯防衛
中頭郡越来村島袋に移動
昭和20年2月 1日 島尻郡大里村西原一南風原、嶺井一
稀富に移動防衛に任ず
3月23日 甲号戦備発令
自 5月 3日
至 6日 戦闘参加の为首里東方弁ヶ岳周辺に集
結待機
8日 首里付近の戦闘に参加（沢越一末吉一
大名）石部隊独立第15大隊に配属さ
る
20日 首里東方大名一宮城に転進山部隊に配
属し戦闘参加
26日 島尻郡真栄里に転進山部隊配属
6月 2日 独混44旅団に復帰す
3日 球第7836部隊長の指揮下に入り具
志頭北方高地に転進戦闘参加
9日 島尻、与座、仲座に転進戦闘参加

-57-

2890

- 17～18日 大隊長以下殆ど全員斬り込敵行し相当の戦果を獲得せるも、戦死傷者続出残存者の遊撃戦闘に移行す
- 27日 解隊状態となる

戦闘経過 其の1 自3月23日 至4月1日

- 1 昭和20年3月23日 朝より突如南方上空方向寄り敵機の大編隊現出し概ね0700頃より空襲爆撃を開始す。
殊に海岸地帯及び海浜部落に指向せられ、軍は直ちに甲号戦備を完了せり。
- 2 3月24日 淺川南方糸満、那覇西方海上に敵の巡洋艦、駆逐艦等数十隻現出し艦砲射撃を開始せり。
主射向は淺川、前川、カチヤ原、知念附近なり。
- 3 3月24日 守備地区内にも緩慢に艦砲射撃及び爆撃を受くるに至り各隊は陣地の補強、予備陣地、前進陣地の構築に全力を傾注せり。
- 4 3月27～28日 当日頃より淺川海面及び奥武島方面に於いて敵は陽動的上陸を実施する態勢を取れり。
- 5 4月1日 1000頃、敵は北谷、桑江、中飛行場方面より上陸を開始せり。
其の兵力約2～4ヶ師団と推定せらる。

戦闘経過 其の2 自4月1日 至5月1日

大里附近配備要図

- 1 4月2日 当添に警備せる海軍武元部隊は尾崎部隊の指揮下に入り戦闘すべき命令を受く。
船舶部隊より尾崎部隊の指揮下に入りし1ヶ中隊は第7中隊配

- 備地区（嶺井附近）に連携し嶺井西側附近に陣地の配備せり。
- 2 4月4日 大隊に大隊砲2門配属せられ大隊砲陣地を西原部落東端に陣地を配備し佐敷一稀福方向より敵の攻撃を予想し射撃に任せしむ。
 - 3 4月5日 第9中隊第1小隊は島尻の古堅附近に陣地を占領し敵の空挺部隊攻撃の命令を受け現地に出発す。
 - 4 4月7日 機関砲2門は敵の中城湾方面よりする上陸に当り舟艇を射撃すべき任務を有せしが飛行機及び戦車を射撃すべく陣地を交換せり。
 - 5 4月17日 62師団正面の戦況不利なる為稀福に在りし第8中隊（1小隊欠）は雨乞森附近に進出し第7中隊と第9中隊との戦闘地境中間に陣地を配備し昼夜兼行にて陣地を構築せり。
 - 6 4月30日 当日まで大隊は軍の予備隊となり警備地区内の守備に任せしむ。

戦闘経過の概要 其の3 自5月2日 至5月19日

首里附近戦闘経過要図

- 1 5月2日 棚原、前田、幸地の線にある24師団の戦況不利なる状況により前線増加の命令を受領し首里東方地区に左の通り集結待機す。

弁ヶ岳南側	第3機関銃中隊
大名	第8中隊
首里東側橋梁附近	第7、8中隊
- 2 5月5日 大隊は64旅団独立第15大隊に配属となり首里西方末吉（第7中隊、機関銃1小隊）、大名（第8中隊、機関銃1小隊）沢砥（第9中隊、機関銃中隊主力）の線に転進命令を受領し各中隊は集結地出発。
- 3 5月9日 敵は前田、安波茶の線、屋富祖、仲西の線より進出

し来り斥候の陣地偵察の範圍なり。

- 4 5月12日 内間方向の敵約1ヶ中隊位の兵力集結中との情報により第9中隊を以て斬り込隊を編成し石原中隊長指揮の下に出発し勇戦奮闘相当の戦果を収めたるも本斬り込に於いて中隊長石原中尉、第1小隊長金田正平中尉、第2小隊長山口税少尉外下士官の戦死傷続出し第3小隊長御手洗善太郎少尉は部下20数名を率い大隊本部に帰還す。
- 5 5月12日 内間方面占領援護の爲め第7中隊を増援転進せしむ。
- 6 5月13日 敵は内間方面に再び來攻し来り激戦展開せられ第1小隊長時枝清臣少尉以下多数の戦死傷者続出し奥野曹長以下60数名帰還せり。
- 7 5月14日 沢岨西北方高地にある大隊本部及び其の稜線にある独立第13大隊陣地正面より敵の戦車4~5両攻撃し来り火焰放射及び戦車砲よりする猛攻により本部壕は完全に敵の馬乗り攻撃を受けるに至る。
- 8 5月15日 1000頃より戦車6~7両は大隊本部、第15連隊陣地後方にある沢岨部落内に進入、後方より陣地を猛攻し始め2100頃より本部壕出入口を離る150mには敵の機関銃、陣地を占領し夜間と雖も猛射する状態となれり。
2100頃大隊は末吉に転進命令を受け、転進援護隊（隊長本部付中島五太中尉下士官1兵8名）を編成し本部陣地前にある敵機関銃を攻撃せしむ、本戦闘に於いて中島中尉以下7名の戦死傷者を出せり。
- 9 0400大隊は末吉に転進せり沢岨一天久一安謝方向より進行する敵を撃滅する目的を以て末吉西北端に陣地を配備す。
- 10 5月16日 沢岨一天久一内間方向より熾烈なる迫撃砲攻撃を受く。
- 11 5月17日 天久方向より攻撃する敵を撃滅する任務を以て第8中隊の1組（小隊長森山寛少尉）機関銃1ヶ小隊（小隊長吉富

国啓少尉)を真嘉比に陣地を占領せしむ。

- 12 5月18日 敵は沢越方向より或は天久方向より漸次兵力を増加しつつ攻撃前進し来り空陸よりの猛攻を受け、1030頃より敵戦車5~6両末吉部落西端に進入戦車砲を以て猛攻す。

而して1700頃集結地に引揚ぐるを常とせり。

前夜急造爆雷を第7中隊第3小隊(小隊長渡辺豊三郎少尉)は末吉西南凹地に埋設、戦車2両を欄座炎上せしめたり。

- 13 5月19日 大隊全員必死の奮闘も我に利非ず2200首里東南方大名に転進命令を受領し20日0300到着、即刻大隊本部を大名、第7中隊、第8中隊及び第3機関銃中隊は要図其の3の配備に移行し0500頃配備を完了し敵の攻撃を阻止す。

戦闘経過の概要 其の4 自5月20日 至6月2日

首里東南戦闘経過要図

真栄里附近戦闘経過要図

- 1 5月20日 大隊正面の敵の攻撃は至極緩慢にして迫撃砲の射撃も亦緩慢にして、本期戦闘中大隊の兵員損耗極めて軽少なり。
- 2 5月21~22日 第8中隊の1ヶ分隊を以て与那覇方面の敵に対し斬り込を敢行せしめ敵に多大の損害を与えたり。
- 3 5月24日 大隊は大里村与座一与座岳の線に転進命令を受け大名南側地区に集結し22時出発、途中友寄付近にある野砲隊棲息壕及びその附近に露営し25日大里村与座到着一泊のうえ転進命令を受け糸満南方国吉、真栄里に到着、山部隊の指揮下に属し糸満、国吉方面より進攻する敵を撃滅すべく真栄里部落北方に陣地を配備し猶真栄里西方海上、糸満西方海上よりする敵の上陸を撃滅すべく第8中隊の2ヶ分隊、機関銃2ヶ分隊を真栄里西方高地に陣地を配備せしむ、要図其の4参照 真栄里西方海面及び那

瀬西方海面には巡洋艦、駆逐艦等数10隻浮遊し真栄里部落へ緩慢的に艦砲射撃を実施せり。

戦闘経過の概要 其の5 自6月3日 至6月9日

島尻具志頭北方戦闘経過要図

- 1 6月3日 独混44旅団復帰
球第7836部隊長の指揮下に入具志頭北方方面高地に陣地を占領し敵のユヒ川渡河を絶対に阻止すべき任務を受領し陣地を配備せり、要図其の5参照、具志頭には球7836部隊野崎隊より1ヶ中隊陣地配備を完了しあり新城附近一帯には手賀支隊陣地を配備せり。
- 2 6月4日 湊川附近にありし友軍は敵の圧迫を受け逐次具志頭方向に転進を始む。
- 3 6月7日 当日頃より湊川正面及び新城南方の敵の攻撃猛烈となり大隊は勇戦奮闘するも我に利あらず17時頃敵の馬乗り攻撃を受く。
- 4 6月8日 未明各隊は大隊本部壕に集結命令を受け集結す、本集結により第7中隊の山田分隊殆ど全員戦死し隊指揮班長奥野久人曹長戦死し第7中隊は本戦闘に当り相当の戦死傷者を出せり。
- 5 6月9日 0800頃敵は大隊本部壕に黄燐弾に依り攻撃し来る、我が防毒面を所持せざる将兵は非常に苦痛を感じ壕外に飛出し戦死せん状況にあり。
爆雷攻撃、黄燐弾射撃等夕刻まで4回乃至5回を実施せり、1600頃より敵は壕外200mの丘陵に陣地を構築し始めたるにより機関銃2ヶ分隊を以てこれを撃退したり。
2100頃大隊は仲座に転進を命ぜられたため各中隊は3名～5名を1組とし距離50m～100mを取り2400転進を開始す。

戦闘経過の概要 其の6 自6月10日 至6月24日

島尻南部与座、仲座附近戦闘要図

- 1 6月10日 仲座北端に集結したる当大隊は仲座西方108高地の旅団の線に至り第3大隊の勇戦奮闘に依り旅団長より賞詞を受け6月10日—6月11—12日の2日間旅団予備隊となる。
- 2 6月11日 第3大隊の戦闘参加可能者80数名となりたるを以て戦闘単位の価値なきため新編成をなす。
第7中隊要員として船舶兵80数名にて編成
第7中隊長 木村大尉 (船舶)
第8中隊 (元7、8、9、中隊を以て編成50数名)
第8中隊長 鈴木中尉
第9中隊要員として船舶兵80数名にて編成
第9中隊長 田尻中尉 (旅団)
第3機関銃中隊4ヶ分隊内1ヶ分隊は船舶兵にて編成30数名
第3機関銃中隊長 相良大尉
- 3 6月12日 具志頭、田原方向より攻撃する敵に対し撃壊すべく第3大隊陣地配備要図其の6のとおり配備す。
- 4 6月15日 敵の第一線与座、仲座の線に進出し終日敵の哨戒機は乱舞し迫撃砲又間断なく咆哮し敵戦車2—3両は仲座北側に進出し69、4高地附近を砲撃或は火焰放射を以て猛攻し仲座にありし第9中隊は苦戦に陥る情況にあり。
- 5 5月16日 敵は強行突破を実施し遂に与座—仲座の線に進出し仲座西側高地、東側丘陵及び仲座北方凹地の掩護物は総て迫撃砲および機銃により盲撃す。
与座—仲座附近を突破せる敵は逐次兵力を増大し後方に攻撃を準備中なり。

6 6月17、8、9日 本期に至り敵の攻撃猛烈となり戦車の火
焰放射、砲撃迫撃砲は各陣地に集中し中隊長以下多数戦死せる状
況なり。

数多の障害を突破克服し断固として攻撃を実行したるも時正に
我れに利あらず此處に於いて中隊の戦闘機能は消滅し必然遊撃戦
闘に移行するの止むなきに至れり。

7 6月22日 軍司令官以下数多の幕僚は自刃せらる独混44旅
団解隊に伴い第3大隊も亦解隊となり同時に中隊も解隊なる。

8 6月26日 本格的に遊撃戦に移行す。

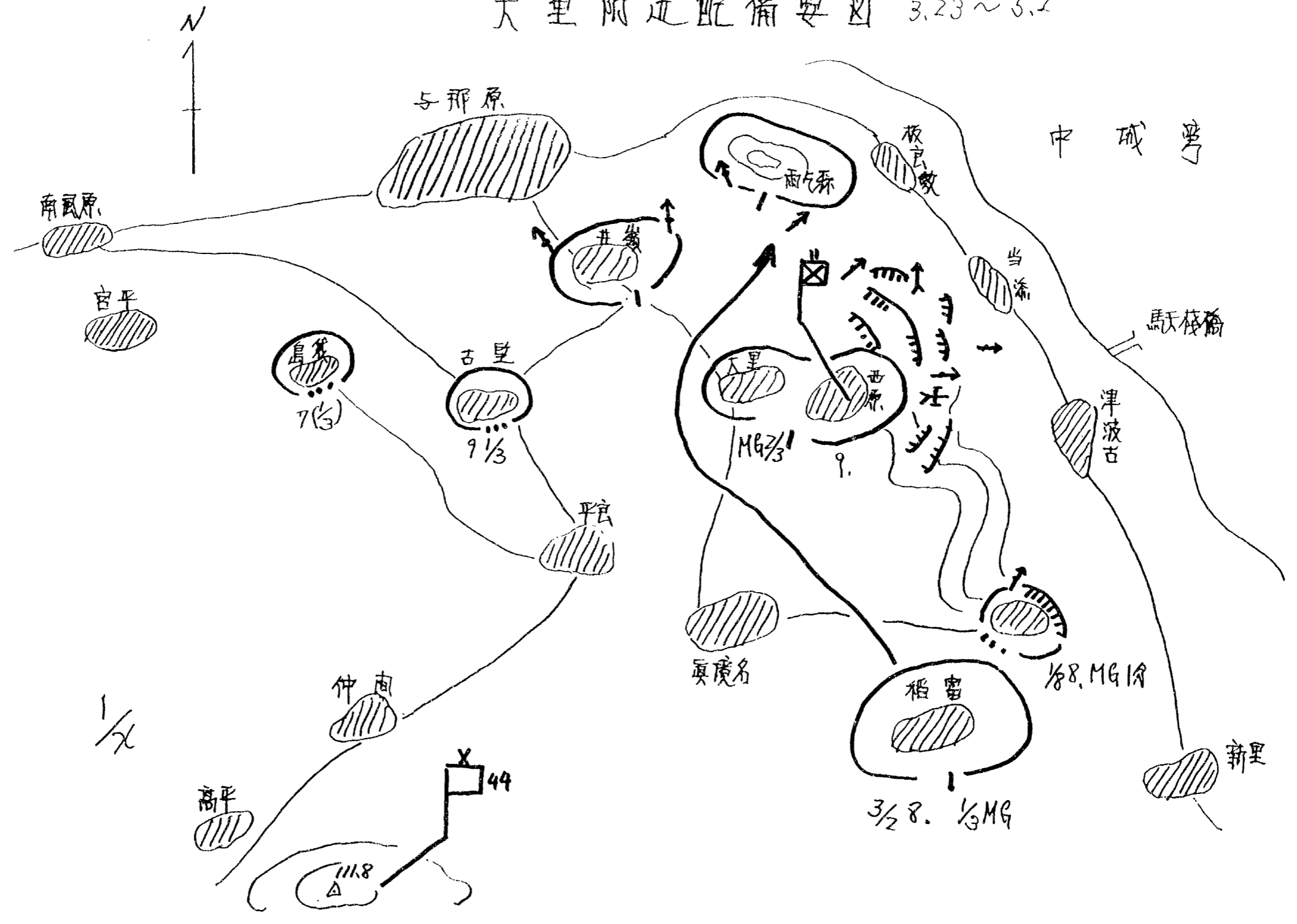
-65-

2898

2453721-1

要図其の1

大里附近配備要図 3.23 ~ 5.2



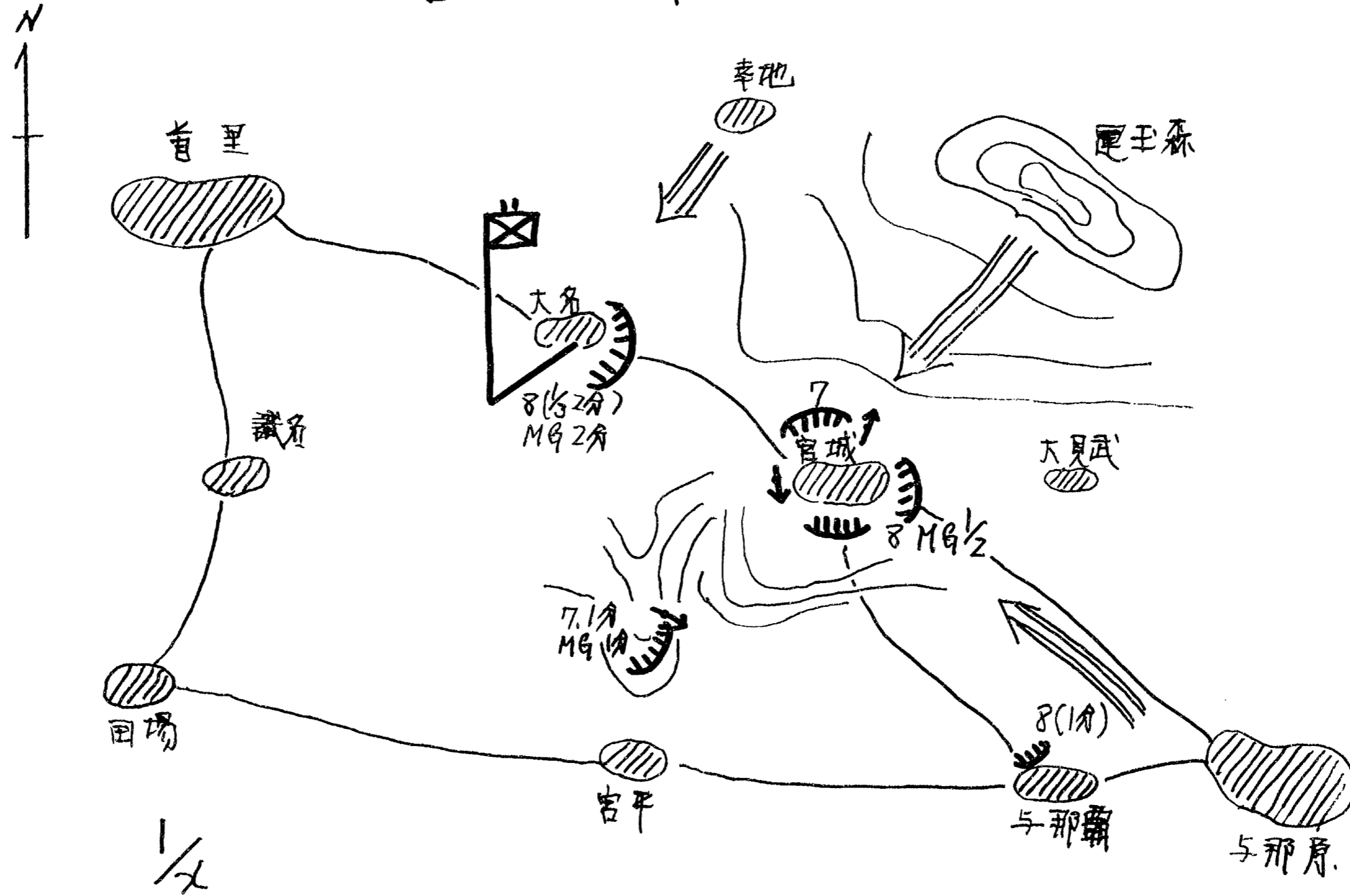
2899

2号38m.F3

首里東南戦斗経過要図

5.20~24

要図其の3



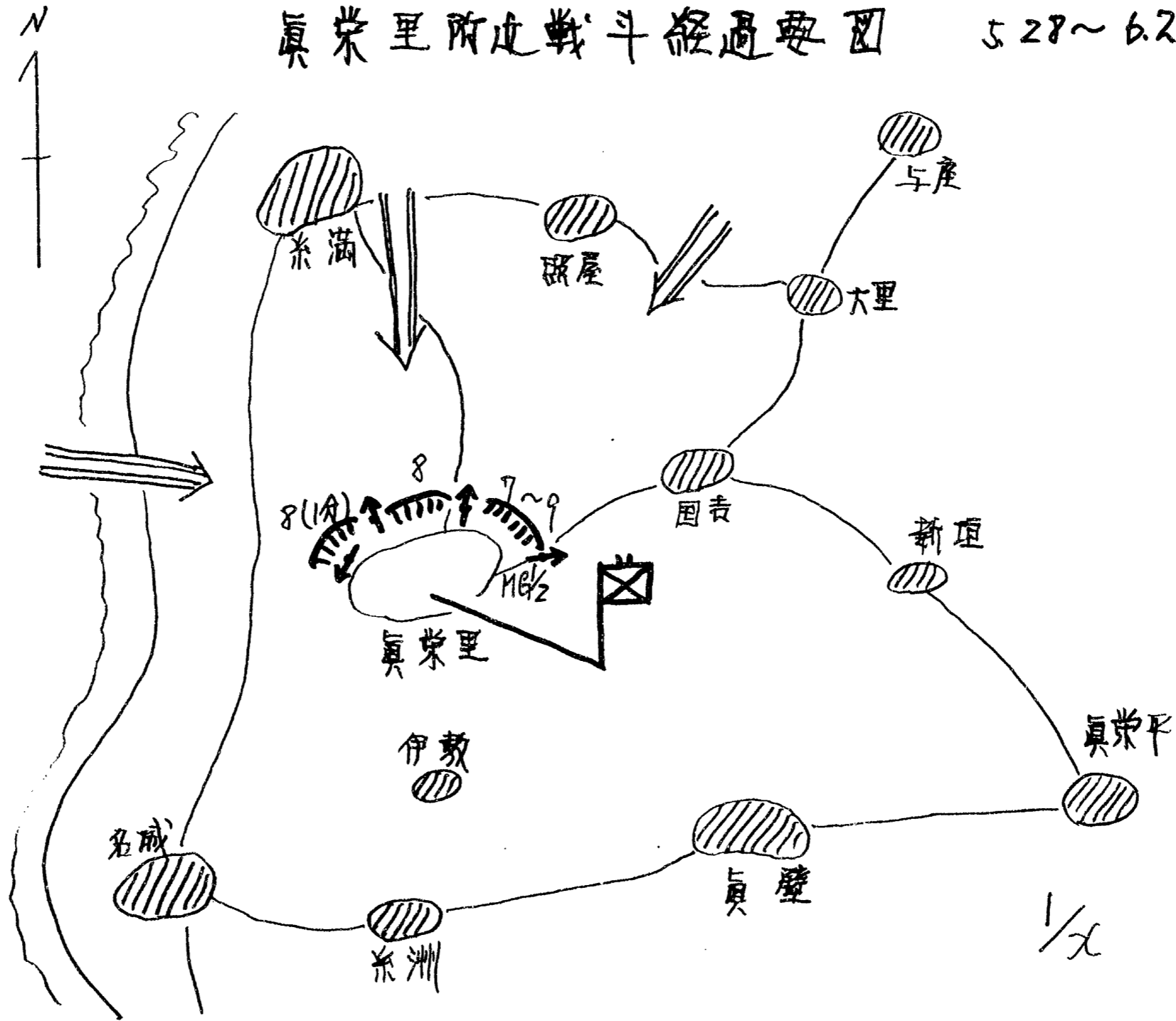
2901

2号38m-4

真栄里附近战斗经过要图

5.28~6.2

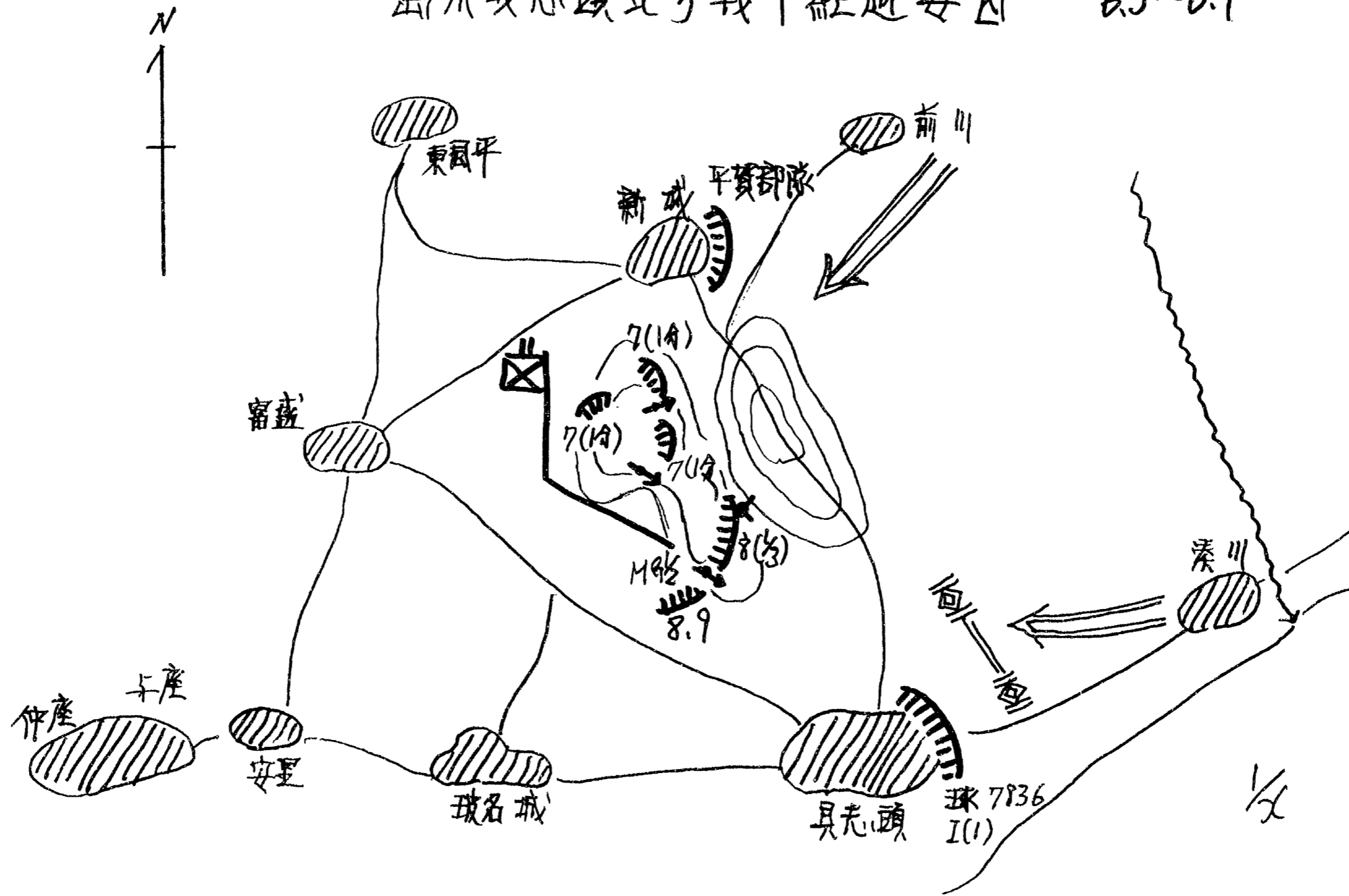
要图其の4



2438m-5

要圖其の5

島原異志頭北方戦斗経過要圖 6.3~6.9



253Bm-6

島尻南部与座作座附近戦術経過要図

6.3~6.9 要図其の6

